



～当たり前のことが当たり前にできることの大切さ～

1月の中旬に、自習をしていたあるクラスに後ろのドアから音を立てずにそっと入りました。子どもたちは、物音一つ立てずに、おしゃべりをする子どもも一人もいませんでした。集中して与えられた課題を一生懸命行っていたのです。

その子どもたちの姿を見てとても感心しましたので、「先生がいないのに、みんな静かに集中して学習ができていて、とてもえらいね！」と声をかけました。

すると、ある男の子から「そんなの当たり前だよ。」という返事が返ってきました。

そこで、「当たり前のことだけど、当たり前のことを当たり前にできる、それが大切なんだよ」と、その子に伝えました。そして、「その当たり前のことができているこのクラスは、とても素晴らしいクラスなんだよ。」と、クラス全体に伝えました。



富岡小学校に赴任して、子どもたちの素晴らしい姿をたくさん見てきました。しかし、子どもたちの周りにいる世の中の大人の姿を見て残念に感じることもあります。当たり前だと思えることができている大人の姿があります。それは、学校の敷地内を回っていて感じることです。

私は、子どもたちが登校する前に学校の敷地内を一回りして安全点検をしています。富岡小学校の正門前の道路は、京急富岡駅に続いています。この道路沿いはたくさんのゴミが落ちていることに気が付きます。駅に向かう途中で煙草を吸っている人が学校の敷地に吸殻を投げ捨てている姿を見たこともあります。また、コンビニで購入したパンやおにぎりの包みが投げ捨てられていたり、時には、お酒の缶が投げ捨てられていることもあります。いかにポイ捨てをする人が多いかということです。落ちている物から考えると、ほとんどが大人の人間によるポイ捨てだと思われまます。

私たち大人は、子どもたちの鏡です。よくも悪くも子どもたちは大人の真似をするものです。ですから、私たち大人は子どもたちの手本になる行動をすることが大切です。ポイ捨てをする大人がいれば、ポイ捨てをする子どもも現れてしまう気がしてなりません。反対に自分のゴミでもないのに拾っている大人がいれば、それを真似する子どもも現れるということです。

私は、校内を歩く時に、廊下に落ちているゴミがあれば拾いながら歩いています。落ちているゴミをまたいで歩いている子どももいますが、最近は、ゴミを拾っている子どもの姿も見られます。ゴミを拾っている子どもの姿を見ると、私のゴミを拾う姿が子どもたちの鏡になり、拾ってくれる姿が見られるようになったのかと嬉しくなります。

教室にゴミが落ちていたり、友達の持ち物が落ちていたりしたら「拾う」というような、“当たり前”のことが学校の中に広がることを願っています。良いこと悪いことの区別はほとんどの子どもができています。しかし、良いと思っていってもなかなかできなかつたり、悪いと思っていともつい見逃してしまつたりということは大人の世界でもよくあることです。

周りの大人が、当たり前のことを当たり前を示せるようにしていくことが子どもの健全育成につながり、次世代を担う子どもを育てることになるのだと思います。

富岡小学校が、「当たり前のことが当たり前にできる子ども」の姿であふれるようにしていきたいと思ひます。そのために、私も含め保護者・地域の皆様の行動をもう一度見つめ直していければと思います。